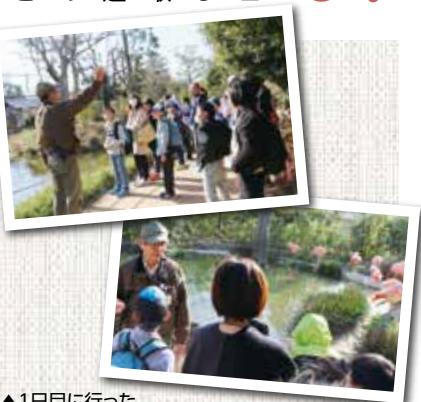


# 忘れない！東日本大震災

# 福島の子どもたちに 楽しい時間をプレゼント！

東日本大震災から8年。今も福島では多くの親子が放射線の問題によってストレスを抱え、支援を必要としています。コーチやまぐちでは、2017年度・2018年度に組合員さんから寄せられた東日本復興支援募金を活用して、今年初めて山口での保養プロジェクトを開催しました。企画の様子や東北支援活動についてご報告します。

## 福島の子ども保養 プロジェクト！ (福島県生活協同組合連合会)



▲1日目に行ったときわ動物園では、フラミンゴやサルの秘密を教えてもらいました。

### 参加者の感想

(アンケートより一部抜粋)

#### 初めて受け入れられた気持ちでした

福島を「福島」と書かれていた記事を震災後見ました。その度、世界や日本中から冷ややかな目で見られていると思っていました。今回、初めて他県の方に受け入れられたとさえ感じたこの3日間。親切にあたたかく迎え入れてください、本当にありがとうございました。

国や生協等が募金で支援している他、県外受け入れ企画を行って、福島の子どもたちを受け入れている生協もあります。

コーチやまぐちでは今まで「ココット！」をメインの支援先として、東日本復興支援募金をお届けしてきました。被災地から遠い山口県でも、改めて被災地へ心を寄せて応援を継続していく意識を高められるよう、2018年度は「コーチやまぐち」を初めて実施するようになりました。



### これからも福島に心で 寄り添っていきたいと感じました

コーチやまぐち企画委員会

福島の子どもたちに  
寄り添ってくれてありがとうございます

震災から8年が経過し、何とも言えない

気持ちです。もう8年、まだ8年…放射線の不安はいつ終わるのでしょうか…。福島

での生活に不安はありませんが、子ども達の笑顔を守るために出来る限りの事を続ける

ことを感じました。また、福島では「自分よりも大変な状況の方もいるのに、楽しく遊ぶのは申し訳ない」という思いから、外で声をあげて遊ぶこともしづらいというお話を伺い、私たちが思っている以上に福島の方の心の傷が深いのだと気付きました。だからこそ、被災地の現状のことをより多くの方に伝えたり、被災地の方に寄り添った支援を継続して行っていきたいと思います。



▲福島から大人8名、小学2~6年生の子ども12名が参加しました。